

平成 30 年 5 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25285210

研究課題名(和文) パフォーマンス評価を活かした教師の力量向上プログラムの開発

研究課題名(英文) Developing teacher training programs utilizing performance assessment

研究代表者

西岡 加名恵 (Nishioka, Kanae)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20322266

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、パフォーマンス評価を活かした教師の力量向上プログラムを開発した。様々な学校との共同研究開発を通して力量向上プロセスを分析した。また、日本や英米の理論的蓄積や先進事例について調査した。その成果を活かして、学習者主体の授業づくり、パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム設計、探究的学習の評価などの研修プログラムを開発した。教師の力量形成のエビデンスを残す教職ポートフォリオや、教師の力量形成を評価するルーブリックやチェックリストも開発した。京都大学大学院教育学研究科の全国スクールリーダー育成研修や、他の校内研修や公開研究会において研修プログラムを提供し、効果の検証と成果の普及を図った。

研究成果の概要(英文)：This study developed teacher training programs utilizing performance assessment. We investigated the process of teacher development through collaborative research with various schools. We also conducted research on theories and practices in the USA, UK and Japan. Based on these outcomes, we developed teacher training programs focused on developing student-centered lessons, designing curricula that incorporate performance tasks and assessment of inquiry-based learning. To complement this, we designed a teacher portfolio for collecting evidence of teacher development, as well as checklists and rubrics to assess this development. We promoted and validated the results of our training programs by presenting them at events such as the School Leader Training Workshop run by the Graduate School of Education, Kyoto University, and other school-based training and public conferences.

研究分野：教育方法学

キーワード：教育評価 教師教育 パフォーマンス評価 パフォーマンス課題 ルーブリック ポートフォリオ カリキュラム開発 教員研修

1. 研究開始当初の背景

教育の改善を図るうえで、その担い手である教師の力量を向上することは要である。中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教師の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」(2012年8月28日)では、「グローバル化など社会の急速な進展の中で人材育成像が変化しており、21世紀を生き抜くための力を育成するため、思考力・判断力・表現力等の育成など新たな学びに対応した指導力を身に付けることが必要」との現状分析が行われた。

本研究のメンバーは、2006年以来、毎年、京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM (教育研究開発フォーラム)が実施している「全国スクールリーダー育成研修」において、パフォーマンス評価に関する研修を提供してきた (<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>)。また、E.FORUMのネットワークを生かしつつ、学校現場において、児童・生徒の思考力・判断力・表現力の育成に有効なパフォーマンス評価の研究開発に取り組んできた。

パフォーマンス評価とは、知識や技能をリアルな文脈において活用することを求めるような評価方法を指す。具体的には、複数の知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるパフォーマンス課題や、それらの課題によって生み出された作品(レポート、プレゼンテーションなど)を系統的に蓄積・評価・活用していくポートフォリオ評価法などが含まれる。パフォーマンス評価を用いる際の評価基準としては、ルーブリック(評価指標)が用いられる。

パフォーマンス評価は、2008年改訂学習指導要領においては『学習指導要領解説 総合的な学習の時間』で推奨されたほか、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010年3月24日)では思考力・判断力・表現力を評価する上で有効な評価方法として紹介された。また、中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(2008年12月24日)では、学士課程教育の質保証のために、学習ポートフォリオやティーチング・ポートフォリオの導入と活用が推奨された。

このように、研究開発当初、パフォーマンス評価は、主として児童・生徒や学生への指導において注目されていた。しかし、そもそもパフォーマンス評価は、教職を含む各種職業における人材養成や研修、資格認定や人事などにおいて用いられてきたものである。したがって、教師の力量向上においても、十分な有効性が期待された。

教員養成段階については、京都大学の教職課程において既に教職課程ポートフォリオを導入し、学習と指導に役立てている。その成果については、京都大学高等教育研究開発推

進センター 第18回大学教育研究フォーラムにおいて、西岡が小講演「大学教育におけるポートフォリオ評価法」(2012年3月15日)の形で報告したほか、E.FORUM 教育研究セミナー「教師教育研究セミナー」(2012年12月7日)において石井が報告し、関係者からの検討を求めた。さらに、西岡加名恵・石井英真他著『教職実践演習ワークブック—ポートフォリオで教師力アップ』(ミネルヴァ書房、2013年)を刊行し、成果の普及をめざした。

本研究では、このような教員養成段階での研究成果を活かしつつ、就職後の教師たちの力量向上を助けるパフォーマンス評価の活用について解明することを課題とした。

2. 研究の目的

本研究では、現職教育において用いられるパフォーマンス評価を開発するとともに、実際にそれを活用した研修プログラムを開発し、提供して改善を図ることを目的とした。

具体的には、下記の成果を生み出すことをめざした。

- 現職教育のための教職ポートフォリオの開発
- 教師の力量向上のためのパフォーマンス課題の開発
- 教師の力量向上を評価するルーブリックの開発
- パフォーマンス評価(上記3つ)を活かした研修プログラムの開発

3. 研究の方法

本研究では、下記の作業に取り組んだ。

(1) 学校との共同研究開発等を通じた力量向上プロセスの分析： 研究代表者・研究分担者が、各地の学校現場においてパフォーマンス評価の活用等について共同研究開発を進めた。具体的には、京都市立高倉小学校、熊本大学教育学部附属中学校、京都府乙訓地方の8中学校、京都市立堀川高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、広島県立広島高等学校、あじさい看護福祉専門学校など、複数の学校と共同研究開発を行った。研究開発のテーマは、思考力やコミュニケーション力といった「資質・能力」を育成するためのカリキュラムの開発、教科におけるパフォーマンス課題の活用、探究的な学習の評価など、それぞれの学校のニーズに応じて多彩なものとなった。共同研究開発を進める中で、教師の力量向上のプロセスについて分析した。

(2) 「E.FORUM Online (EFO)」に蓄積されているデータの分析： E.FORUMでは、教師たちが生み出した各種資料(指導案や教材など)を蓄積するデータベースとして、「E.FORUM Online (EFO)」を開設してい

る。E.FORUMの研修の場などにおいてEFOへのデータ入力と呼び掛けるとともに、教師の力量という視点からデータを分析し、研修プログラムや教職ポートフォリオ、ルーブリック等の開発に役立てた。

(3) 英米、ならびに日本の先進的な実践例に関する調査： 英米の理論や実践、日本における先進事例や歴史的な事例について、文献調査や現地調査を行った。

(4) 研修プログラムの提供・改善：
E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」等の機会を利用して、研究成果を発信するとともに、開発した研修プログラムを活かした研修を提供し、プログラムの有効性について検証した。

4. 研究成果

本研究の成果として、下記が生み出された。

(1) 研修プログラム等の開発： 本研究の取り組みを活かして、下記の内容に関する研修プログラムを開発した。

- パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム設計
- 学習者主体の授業構想
- 「目標に準拠した評価」の実現
- カリキュラム改善のための校内研修
- 探究的学習の評価

この主要部分については、E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」で提供するとともに、報告書を作成した。

また、教師の力量形成のエビデンスを残す教職ポートフォリオを開発した。これは、次の5つの柱で、実践資料を整理するものである。

- A. 教科の本質を追求する単元構想
- B. 学習者主体の授業構想
- C. 「目標に準拠した評価」の実現
- D. カリキュラムの改善
- E. その他

あわせて、学力評価に関わる教師の力量形成を評価するためのチェックリストやルーブリックも開発した。

これらの成果については、E.FORUMのウェブサイト上でも公開している (<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/competence/>)。また、学校の校内研修や教育委員会の研修などにおいても提供した。

(2) 特に探究的な学習に関しては、E.FORUMにおいて次のセミナー等を開催した (<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/highschool/>)。

- 教師力アップ研修「探究力をどう育成するか」(2015年3月28日)
- 教育研究セミナー「高等学校における探究の評価」(2015年8月1日)
- シンポジウム「高等学校におけるカリキ

ュラム改善—探究的な学習を中心に」
(2016年8月19日)

また、探究的な学習や子どものケアなどに関する特徴的・先進的な実践についての講演会を実施し、その動画等をウェブページ上で公開した (<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/etc/>)。

(3) 諸外国や日本における歴史的な事例に関して調査を行った。特に米国については、関連する基本的な関連文献を訳出し、2冊の『研究基礎資料集』を作成した。また、日本における歴史的な事例に関しては、英文による書籍 (*Curriculum, instruction and assessment in Japan*, ならびに *Educational progressivism, cultural encounters and reform in Japan*) などで公開した。

(4) 教員の力量形成に関する知見をまとめた書籍として、『教育課程』『特別活動と生活指導』『教職教育論』(協同出版)、『教科と総合学習のカリキュラム設計』(図書文化)、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』(明治図書)、『教師の資質・能力を高める! アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ』(日本標準)を刊行した。また、京都市立高倉小学校との共同研究について、World Association of Lesson Study 2017にて、教師の力量形成の視点から成果をまとめて発表した。この他、京都府立園部高等学校との共同研究の成果について『パフォーマンス評価で生徒の資質・能力を育てる』(学事出版)、あじさい看護福祉専門学校との共同研究の成果について『看護教育のためのパフォーマンス評価』(医学書院)として公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計53件)

西岡加名恵「大学入試改革の現状と課題—パフォーマンス評価の視点から」名古屋大学高等教育センター『名古屋高等教育研究』第17号、2017年、pp.197-217。
石井英真「資質・能力ベースのカリキュラム改革をめぐる理論的諸問題—教育的価値を追求するカリキュラムと授業の構想に向けて—」『国立教育政策研究所紀要』第146集、2017年、pp.109-121、査読有。

鋒山泰弘「『高大接続システム改革』とカリキュラムマネジメントの課題」『追手門学院大学教職課程年報』第25号、2017年、pp.23-32。

石井英真「授業の構想力を高める教師の実践研究の方法論」京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座『教育方法の探

究』19号、2016年、pp.11-21。

DOI:10.14989/226084

鋒山泰弘「2015年度『教育実習の記録』から読み取る指導の課題」『追手門学院大学教職課程年報』第24号、2016年、pp.45-54。

赤沢真世、浦島清一、武田富美子「正課を補完する課外自主活動を通じた学生の学びと成長感—教職を目指す学生の沖縄研修—」『立命館教職教育研究』第2巻、2015年、pp.49-59、査読有。

神崎奈奈、三輪和久、寺井仁、小島一晃、中池竜一、森田純哉、齋藤ひとみ「認知モデル作成による認知情報処理の理解を促す大学授業の実践と評価」『人工知能学会論文誌』第30巻第3号、2015年、pp.536-546、査読有。

<https://doi.org/10.1527/tjsai.30.536>

石井英真「教員養成の高度化と教師の専門職像の再検討」『日本教師教育学会年報』第23号、2014年、pp.20-29、査読有。

八田幸恵「発展的な読みの能力を保障する教育目標・評価論の課題—1960年代のアメリカにおける『読みの理解のタキノミー』の検討を通して—」『国語科教育』76巻、2014年、pp.47-54、査読有。

https://doi.org/10.20555/kokugoka.76.0_47

石井英真「現代日本の学力向上政策の検討—『スタンダードに基づく教育改革』の日本的特質—」『日本デュイ学会紀要』54巻、2013年、pp.145-155、査読有。

赤沢真世、小沢道紀、大友智「草津市におけるスポーツフェスティバルが児童の運動有能感にもたらす効果の検討」『立命館教職教育研究』第1巻、2013年、pp.5-14、査読有。

ほか42件

〔学会発表〕(計21件)

TOKUSHIMA Yuya, TSUGIHASHI Hideki, NAKANISHI Shuichiro, ONUKI Mamoru, FUKUSHIMA Yuki, ISHII Terumasa and NISHIOKA Kanae, 'Developing Teacher Educators and School Teachers through Collaborative School-based Action Research', World Association of Lesson Study 2017, 国際学会。

西岡加名恵「職業教育におけるパフォーマンス評価の進め方—ルーブリックをどう作成・活用するか」第45回日本放射線技術学会秋季学術大会、2017年、招待講演。

西岡加名恵「中内敏夫氏による到達度評価論の現代的意義—『真正の評価』論の視点から」教育目標・評価学会第27回大会、2016年。

石井英真「教職の専門性を支える知のあり方をめぐって—米国における教師の実践知と知識基礎に関する研究の展開を中心に」『多様性と民主主義を視点とした』社会科教育 国際シンポジウム、2016年、招待講演。

西岡加名恵「学校におけるカリキュラム改善の進め方—『逆向き設計』論からの提案」日本カリキュラム学会第25回大会 公開シンポジウム、2014年。

西岡加名恵「パフォーマンス評価の進め方」日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ、2014年、招待講演。

石井英真「授業研究における教師の学びの質を問い直す—戦後授業研究史の展開をふまえて」日本教育方法学会第49回大会 公開シンポジウム、2013年。

ほか14件

〔図書〕(計33件)

西岡加名恵編著『グラント・ウィキンス著、「教育的評価」(序章~第9章)』(基盤研究 B パフォーマンス評価を活かした教師の力量向上プログラムの開発 研究基礎資料集) 京都大学大学院教育学研究科、2018年、全239頁。

西岡加名恵編著『カリキュラムとスタンダードをめぐる論点』(基盤研究 B パフォーマンス評価を活かした教師の力量向上プログラムの開発 研究基礎資料集) 京都大学大学院教育学研究科、2018年、全135頁。

西岡加名恵編著『平成28年度成果報告書兼平成29年度研修用資料 全国スクールリーダー育成研修』京都大学大学院教育学研究科、2017年、全206頁。

田中耕治、高見茂、矢野智司編(西岡加名恵・石井英真)『教職教育論(教職教養講座 第1巻)』協同出版、2017年、全280頁(pp.207-227, pp.229-251)。

Kanae Nishioka, "Hama Omura's Unit learning practice for Japanese classes", in Yoko Yamasaki, and Kuno Hiroyuki, eds., *Educational progressivism, cultural encounters and reform in Japan*, Routledge, 2017, 全242頁(pp.139-153)。

西岡加名恵編著『特別活動と生活指導(教職教養講座 第7巻)』協同出版、2017年、全246頁(pp.1-2)。

西岡加名恵編著『教育課程(教職教養講座 第4巻)』協同出版、2017年、全257頁(pp.1-2, pp.7-30)。

西岡加名恵、永井正人、前野正博、田中容子+京都府立園部高等学校・附属中学校編著『パフォーマンス評価で生徒の資質・能力を育てる』学事出版、2017年、全128頁(pp.7-22)。

石井英真編著(西岡加名恵)『教師の資

質・能力を高める！アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ—教師が学び合う「実践研究」の方法』日本標準、2017年、全199頁。

日本教師教育学会編(石井英真)『教師教育研究ハンドブック』学文社、2017年、全432頁(pp.174-177)。

田中耕治編(赤沢真世)『教育の方法と授業の計画』協同出版、2017年、全214頁(pp.191-208)。

西岡加名恵編集『E.FORUM 教育研究セミナー成果報告書』京都大学大学院教育学研究科、2016年、全146頁。

Koji Tanaka, Kanae Nishioka, Terumasa Ishii, Curriculum, Instruction and Assessment in Japan: Beyond lesson study, Routledge, 2016, 全162頁。

西岡加名恵編著『教科と総合学習のカリキュラム設計—パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年、全295頁。

西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価—アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書、2016年、全144頁(pp.11-32)。

乙訓中学校教育研究会(西岡加名恵)『乙訓スタンダード』2016年、全173頁(pp.1-10)。

上條晴夫編(石井英真)『教師教育』さくら社、2015年、全208頁(pp.98-103)。

西岡加名恵編集『高校生と大学生の探究成果ポスター発表会』京都大学大学院教育学研究科、2015年、全99頁。

西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著『新しい教育評価入門』有斐閣、2015年、全286頁。

西岡加名恵編著『平成25年度成果報告書全国スクールリーダー育成研修』京都大学大学院教育学研究科、2014年、全227頁。

- 21 日本教育方法学会編著(西岡加名恵・石井英真)『授業研究と校内研修—教師の成長と学校づくりのために(教育方法43)』図書文化、2014年、全160頁(pp.36-49、pp.77-90)。

- 22 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック—ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年、全142頁(pp.14-23、pp.80-97)。

ほか11件

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)
なし

○取得状況(計 件)
なし

〔その他〕

ホームページ等

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM の開設しているウェブページにて、下記のような「研究成果のご紹介」のページを開設している。

- 「高等学校における探究」

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/highschool/>

- 「様々な実践の紹介」

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/etc/>

- 「パフォーマンス評価(動画)」

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/movie/>

- 「教師の力量形成」

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/competence/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

西岡 加名恵 (NISHIOKA, Kanae)
京都大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：20322266

(2)研究分担者

中池 竜一 (NAKAIKE, Ryuichi)
平安女学院大学・国際観光学部・准教授
研究者番号：00378499

石井 英真 (ISHII, Terumasa)
京都大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：10452327

鋒山 泰弘 (HOKOYAMA, Yasuhiro)
追手門学院大学・心理学部・教授
研究者番号：30209217

赤沢 真世 (AKAZAWA, Masayo)
大阪成蹊大学・教育学部・准教授
研究者番号：60508430

八田 幸恵 (HATTA, Sachie)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：60513299

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし